

パリ国立図書館所藏のサンスクリット 寫本とその目録

定 方 晟

パリ国立図書館寫本課^Iはヨーロッパ（ギリシヤ，ラテン，フランス，イタリア，スペイン等）は勿論，西南アジア，インド，東南アジア，東アジア，中央アジア等の寫本を藏している。西南アジアの寫本は比較的早くから豊富であつたが，それより更に東の國々の寫本はヨーロッパの東洋における貿易，傳導活動がいよいよ盛んになった時期に起因する。學者はこれら遠東の國々に關心を寄せ，王立圖書館は1719年，インド以東の書物を購入すべく目録を作製した。以後，寫本は回を重ねて圖書館に入るようになったが，目録もそれに應じて次々と作られた。

いま私はサンスクリットの寫本だけについて，その入館年代と入館事情，並びにその目録作製の進行情況について述べ，パリ国立図書館所藏の全サンスクリット寫本に對する概括的な認識を供しうよう試みた。本稿は主として下記参考書（2）に依り，必要に應じて他の註記を加え，さらに Filliozat 教授の校閲を忝うした。教授に心から感謝の意を表したい。

参考書

- (1) Léopold Delisle: Le Cabinet des Manuscrits de la Bibliothèque Impériale, Tome I, II, III, Planches, Paris, 1868-1881.
- (2) Jean Filliozat: Catalogue du Fonds Sanscrit, Fascicule I, Paris, 1941. (Introduction pp. I-XXI)
- (3) Bernard Pauly: Fragments Sanskrits de Haute Asie (Mission Pelliot), Journal Asiatique, année 1965, Fascicule I, pp. 83-121.

註

[1] いまでも寫本は圖書館の一隅を占めるにすぎないが，かつては圖書館といえは寫本しかなかった。圖書愛好家で，王立圖書館の創始者とも考えられるシャルル五世（在位1364-80）は死んだとき 1000 餘りの寫本を残した。シャルルマーニュ（在位768-814）は王室に筆耕とその作業場（atelier des copistes）をおき，僧院もこれをまねた。ルイ十一世（1498-1515）の時代にも筆耕作業場はあり，フランソア一世（1515-47）のときには作家はまだ寫本で著書を獻呈していた。但し，1400年代に始まつた活版印刷術は急速に發展し，1500年までには約三萬種の本（各100〜1000部？）が出版されたと想定される。（参考書（1），Tome I, pp. 31, 112, 163; SVEND DAHL: Histoire du Livre, Paris, 1960, pp. 87, 121, etc.）

現在パリ国立図書館の寫本課（Département des Manuscrits）には東洋寫本室（Salle des Manuscrits Orientaux）がおかれている。

〔Ⅱ〕 1645年の王立圖書館の總合カタログは3930番を数えた。以後圖書館の藏書は急速にふえたが、1682年 Nicolas Clément の作つたカタログは1645年のカタログに記載されなかつたものを集録した。これは10542番を数え、そのうちわけは次のとおりである。ヘブライ語の寫本 (以下、特に斷わらない限り寫本) (No. 1~282), 古典シリア語或いはカルデア語 (283~309), サマリア語 (310~312), アルメニア語 (313~317), エチオピア語 (320~322), コプト語 (326~367), アラビア語 (368~1228), トルコ語 (1229~1471), ペルシア語 (1472~1610), シナ語の本 (1611~1614), カナリヤ語 (1615), アラビア語の卷物 (1616, 1617), 雜または辭書 (1620~1636), ギリシャ語 (1801~3538), ラテン語 (3561~6700), フランス語および近代ヨーロッパ語 (6701~10542)。このうちシナ語のものは樞機卿マザランの手より入館したもので、後1697年にはシナの皇帝からルイ14世に49卷のシナ本が贈られ、1700年にはシナとタルタルの小冊子72が De Fontenay 神父によつてもたらされている。インドのものに關しては1700年まで Delisle の記述はない。(參考書 (1), Tome I, pp. 261~262, 290, 300)

〔Ⅲ〕 フランスはルイ14世 (在位1643~1715) の時代に強力な重商主義をとり、1664年フランス東インド會社を再建し、1673年 Pondichéry (インド東岸) を、1688年 Chandernagor (カルカッタの北) を獲得した。

〔Ⅳ〕 この圖書館は王室圖書館から發展したものである。大革命以來、全ての國民に開放されたが、政體の改革に従い、名も王立、國立、帝立と變つた。

〔Ⅴ〕 1873年、東洋資料 (Fonds Orientaux) の全品目は18642に達した。ヘブライ語、アラビア語等のものが大きく増加したのは勿論だが (cf. 註〔Ⅱ〕), サンスクリット資料についてもリストの第14の項に次の如く記されている (參考書 (1), Tome II, p. 324)。

14. サンスクリット寫本 565 (デーヴァナーガリー文字 316, ベンガル文字 249)。

14 bis. 寫本その他 (ビュルスツフ蒐集) 271+東洋で印刷または石版刷りの書物 57。

〔Ⅵ〕 サンスクリットの資料は三つのグループに分けることができる (cf. 參考書 (3) p. 108, p. 109 n. 1, p. 84)。

a. いわゆる「サンスクリット資料」1820番

但し 1809~1813 はパーミヤーン及び中央アジアのもので、現在 Guimet 博物館に寄託されている。

b. 刻文の拓本

ネパールの刻文 66

カンボジアの刻文 1151

雲南の刻文 不明

c. ペリオ資料 3000~4000 documents (殆ど斷片で、利用可能のもの 1000~1500)

パリ国立図書館所蔵サンスクリット寫本

寫本の入館年次と入館させた人	目 録 の 作 製
1731 Le Gac 神父らの最初の送本 ⁽¹⁾	
1733 Pons 神父 ⁽²⁾	
1762 Anquetil-Duperron ⁽⁴⁾	1739 L'abbé Bignon et É. Fourmont ⁽³⁾
1777 J. B. J. Gentil ⁽⁶⁾	
—— De Polier ⁽⁸⁾	
1805 Anquetil-Duperron ⁽⁷⁾	1807 A. Hamilton et L. Langlès: Catalogue des manuscrits sanscrits de la Bibliothèque Impériale ⁽⁸⁾ Paris, 1807. Une série devanagari (D) et une série bengalie (B).
	—— Fauriel ⁽⁹⁾
1833 Ph. Ducler ⁽¹⁰⁾	—— L. Deslongchamps ⁽¹¹⁾
1840 B. H. Hodgson ⁽¹²⁾	—— S. Munk ⁽¹¹⁾
1840 J. Prinsep ⁽¹³⁾	
1847 Ch. d'Ochoa ⁽¹⁴⁾	1848 E. Burnouf et Reinaud: Catalogue des ouvrages indiens, arabes etc. rapportés par M. Ch. d'Ochoa, chargé d'une mission scientifique dans l'Inde par le Ministre de l'Instruction publique. Journal Asiatique, janvier 1848, pp. 66-85. ⁽¹⁵⁾
1854 E. Burnouf ⁽¹⁶⁾	1855 J. F. M. Guérin: Catalogue de manuscrits orientaux en langue sanscrite sur l'Astronomie, la Médecine, etc.....recueillis dans les Indes orientales.. Paris, 1855. ⁽¹⁷⁾
1861 J. F. M. Guérin ⁽¹⁷⁾	1872 L. Rodet ⁽¹⁸⁾
1877 碑銘學文藝アカデミー ⁽¹⁹⁾	—— L. Feer ⁽²¹⁾
1886 E. Haas ⁽²⁰⁾	

寫本の入館年次と入館させた人	目 録 の 作 製
1898 A. Foucher ⁽²²⁾ —— É. Senart ⁽²³⁾	1907 A. Cabaton : Catalogue sommaire des manuscrits sanscrits et pâlis, 1 ^{er} fascicule, —Manuscrits Sanscrits, Paris, 1907. ⁽²⁴⁾
1910 P. Pelliot ⁽²⁵⁾ —— Inscriptions du Cambodge. Inscriptions de l'Inde(入館年代不詳) ⁽²⁶⁾	1923 G. Coedès : Liste générale des inscriptions du Champa et du Cambodge, 2 ^e éd., Hanoi, 1923. ⁽²⁷⁾
1928 É. Senart ⁽²⁸⁾	1934 J. Filliozat : Chronique et notes bibliographiques : Liste des manuscrits de la collection Palmyr Cordier conservés à la Bibliothèque Nationale, Journal Asiatique, janvier-mars 1934, pp. 155-173. ⁽³⁰⁾
1932 P. Cordier ⁽²⁹⁾	1936 J. Filliozat : Chronique et notes bibliographiques : État des manuscrits de la Colletion Émile Senart, Journal Asiatique, janvier-mars 1936, pp. 127-143. ⁽³¹⁾
1938 東洋語學校 ⁽³²⁾	1941 J. Filliozat : Catalogue du Fonds Sanscrit, Fascicule I (No. 1~165). Paris, 1941. ⁽³³⁾
	1957 B. Pauly : Fragments Sanskrits de Haute Asie (Mission Pelliot), Journal Asiatique, année 1957. Fascicule n° 3. ⁽³⁴⁾

(1) Bignon (ビニヨン) 神父は 1718 年, 王立圖書館の司書に任命されると, 當時王立コレージュ (Collège royal 即ち Collège de France の前身) のアラビア語の教授をして

(154) バリ國立圖書館所藏のサンスクリット写本とその目録 (定 方)

いた Étienne Fourmont (エチエンヌ・フルモン) に命じて、王立圖書館のために購入すべき、シナ、タルタル、インド、シヤム等の本のリストを作らせた。このリストは1719年に出来あがつた。それは二部作られたが、その一部には“Panjangam”, “Vedam”, “Ramayenam”, “Bartrouherri の作品” などが含まれていた。このリストは、後に同じフルモンによつて作られた新しいリストと一緒に1727年フランス東インド會社*の役人たちのもとに送られた。

1728年、ボンディシユリの總司令官ルノワール、その秘書シニャール、ボンディシユリのジェズイット宣教師會長 Le Gac (ルガック) 神父らはこれらのリストの寫しをインド各地の宣教師に配布した。バリへの送本は1729年に始まり、1737 年まで毎年續いた (送本は約 300 巻に達した)。運搬と本代の前拂いは東インド會社が引きうけた。1731年 Calmette (カルメット) 神父が送つたものの中にはリグヴェーダ、アイタレーヤーラニヤカ、アイタレーヤブラーフマナが含まれていた。外にタミール、テリング、サンスクリットの作品もあつた。

* インドにおける二度の戦い——カルナティック戦争 (1751-54) とブラッシーの戦い (1757) ——においてフランスはイギリスに敗れ、この會社もやがて勢力を失う。

- (2) (1) の一環としてシャンデルナゴル在の Pons (ボンズ) 神父の収穫は最大であつた。彼は自分が集めたり、人に寫させたりしたサンスクリットの著作のリストを1733年バリへ送つた。そのリストは 168 の作品を含んでいたが、それはウパニシャッドの諸作品、文法書、古典文學書、哲學書 (特にニヤーヤ) などであつた。
- (3) 東洋の本の蒐集が進むにつれカタログが必要となつた。ピニョンとフルモンがその仕事にとりかかり、Catalogus manuscriptorum Bibliothecae Regiae, I, Codices orientales, Paris, 1739 の中 (pp. 434-448) で Codices indici の目録を發表した。これは 287 の作品を含んでいる。
- (4) Anquetil-Duperron (アンクティル・デュペロン) はどこからの援助もなく、23 歳で單身インドへ書物の蒐集に向つた。彼は1762年王立圖書館へ 180 の寫本を持ち歸つた。その多くはアヴェスタ語、パフラヴィ語、ペルシャ語、いくつかの近代インド語によつて書かれたもので、6 つだけがサンスクリットのものであつた。彼自身のカタログがある (Zend-Avesta..., Paris, 1771, t, I, P. DXL.)
- (5) Jean-Baptiste-Joseph Gentil (J. B. J. ジャンティ) はフランス人將校であつたが、ファイザバードでこの蒐集品を得た。L. Delisle によれば「1778年、ペルシャ語及びサンスクリットの寫本約 174 をもたらした。」(参考書 (1), Tome I. p. 549.)
- (6) A. L. H. de Polier (A. L. H. ド・ポリエ) はイギリス東インド會社勤務のスイス人將校で、その蒐集品の一部が彼の息子をとうして入館した。
- (7) 1805年アンクティルの死によつて、彼が所有していた文書類がシルヴェストル・ド・サンの手に移り、シルヴェストル・ド・サンはこれを圖書館に引き渡した。
- (8) Hamilton (ハミルトン) は Hertford の東洋語學校の教授であつた。Langlès (ラ

ングレス)は當時帝立圖書館の東洋寫本の管理の任にあつた。このカタログはデーヴァナーガリー文字の49の寫本,種々のベンガル文字による179の寫本,ベンガル語の作品数点を記載した。

- 〔9〕 このころ,カタログは1739年のカタログと,ハミルトンのカタログと,新しく Fauriel (フォリエル)等が作製した註記 (notice) とからなつていた。ただし,テリングア文字とナンディナーガリーの寫本だけは新しい註記の対象にならなかつた。
- 〔10〕 Ducler (デュクレール) はカリカルの行政官であつたが,その蒐集品はタミール語とサンスクリットの作品からなつていた。サンスクリットの作品はグランタ文字で書かれている。
- 〔11〕 Loiseleur-Deslongchamps (ロワズルール・デロンシャン) は1840年に死んだとき,小數ながらサンスクリットの寫本に對する新しい註記 (notice) を作つていた。彼を繼いだ S. Munk (S・ムンク) (失明して1852年退館) は新しい目録をつくつたが,ハミルトンと同様,南インドの寫本には觸れなかつた。
- 〔12〕 B. H. Hodgson (B. H. ホジソン) は Eugène Burnouf (ウージェーヌ・ビュルヌッフ) の依頼により,1837年パリのアジア協會 (Société Asiatique) のために,初め24,次いで64の寫本のコピー (ナーガリー文字あるいはネパーリー文字) を入手してやつた (ネパールで現地人に寫させたもの)。後者 (64) はだだちにリストが發表され (Catalogue des livres bouddhiques, écrits en sanscrit, que M. B. H. Hodgson a fait copier au Népal pour le compte de la Société Asiatique, et qui ont été présentés au Conseil dans sa séance du 14 juillet 1837, Journal Asiatique, septembre 1837, pp. 296-298), 1840年王立圖書館の寫本室へ移された。ホジソンは當時カトマンズのイギリス辯理公使,ビュルヌッフはアジア協會の祕書であつた。
- 初めのグループの24の寫本は今日なおアジア協會に保存されており,このカタログはフィリオザ教授によつて作られた。J. Filliozat: Catalogue des Manuscrits Sanscrits et Tibétains de la Société Asiatique, Journal Asiatique 1941-42, pp. 1-81.
- 〔13〕 ビュルヌッフはベンガル・アジア協會の祕書 James Prinsep (ジェームズ・プリンセップ) にヴェーダ及び佛教の作品をパリへ送つてくれるよう依頼した。それらの寫本は1840年圖書館に到着した。
- 〔14〕 Charles d'Ochoa (シャルル・ドショア) は1816年 Bayonne に生れ,1835-36年通商のためインドを訪れた。彼はマラタ,ヒンディー,ウルドー,パンジャビのテキスト並びに或る數のサンスクリットの寫本を含む蒐集品をもたらした。
- 〔15〕 シャルル・ドショアのコレクションに對するカタログは1846年につくられ,1848年に發表された。そのうちサンスクリットの部はビュルヌッフによるもので pp. 66-72.
- 〔16〕 ビュルヌッフ (1852 死) のコレクションは1854年入館し,「ビュルヌッフ資料」(fonds Burnouf) を形成した。ヴェーダと佛教のものが多かつた。Cf. B. Duprat: Catalogue des livres imprimés et manuscrits composant la Bibliothèque de feu M. Eugène

(156) パリ国立図書館所蔵のサンスクリット寫本とその目録 (定 方)

Burnouf, Paris, 1854.

* J. Filliozat : Catalogue du Fonds Sanscrit, Fascicule I の Introduction P. XII. に 1845 とあるのは印刷のまちがひ。

- (17) J. F. M. Guérin (J. F. M. ゲラン) 神父はもとシャンドルナゴルの主任司祭であつたが、血統の絶えた或るベンガルの醫師の文庫を買いとり、カタログを作つた。多く科學書であつたが、そのコレクションは1861年圖書館の所有するところとなつた。
- (18) León Rodet (レオン・ロデ) はグラント文字の寫本の略註をつくつた。
- (19) およそ 100 の寫本が碑銘學文藝アカデミー (Académie des Inscriptions et Belles Lettres) から圖書館に與えられた。碑銘學文藝アカデミーはこれを 1877 年ラージェンドララール・ミトラから手に入れていた。多くは文法書および古典文學書であつた。1873 年には Ph. Ed. Foucaux も R. L. Mittra の名で音樂のテキストを入館させている。(參考書 (1) T. II. p. 318)
- (20) Ernst Haas (ハース) の蒐集品はグラント文字、テリンガ文字およびナンディナーガリー文字の寫本で、タミールの寫本もあつた。
- (21) León Feer (レオン・フェール) は圖書館寫本課の司書であつた。19 世紀の最後の四半分をカタログの作製のために働いた (1903 年まで) が、その仕事は未完にとどまり、出版されずに終つた。
- (22) 1898 年碑銘學文藝アカデミーから古典の書が贈られた。その多くはカシミール本だが、フーシェが西北インドへ第一回の學術調査を行つたとき集めたものである。
- (23) Émile Senart (エミール・スナール) はスタイン (Aurel Stein) がカシミールで蒐集した、上記 (22) と同類のコレクションを手に入れ、これを圖書館に入れた。スナールはまた古い時代のカロージュティー文字の一寫本 Dutreuil de Rhins (デュトルイユ・ド・ランス寫本) を圖書館に入れた。ただしこの寫本は中期インド語の方言で書かれているため、パーリ資料に入れられた。(fonds Pāli, n° 715)。
- (24) 圖書館にいろいろな寫本コレクションが集まり、総合的な目録が必要とされた。そこで Antoine Cabaton (アントワヌ・キャバトン) はインド、インドシナ、及びインドネシアの全ての寫本コレクション (fonds) の略述的なカタログを作つた。すなわち、これまでの種々の目録作製者たちが寫本に與えていたタイトルをそのまま再録したのである。
- Catalogue sommaire des Manuscrits Sanscrits et Pālis, 1^{er} Fascicule—Manuscrits Sanscrits, 1907; 2^e Fascicule—Manuscrits Pālis, 1908; Catalogue sommaire des Manuscrits indiens, indochinois et malayo-polynésiens, 1912.
- (25) Paul Pelliot (ポール・ペリオ) (1906-1908 探險) の資料は數次にわたつて國立圖書館に入つた。はじめそれらの寫本はそれらを調査し、分類した人たちの手にあつたが 1910 年から圖書館に入り始めた。ペリオ資料 (Fonds Pelliot) の内容についてみるに、その言語別の概量と目録 (整理) 擔當者は次の如くである (參考書 (3) pp. 105-106)

- シナ語……3621+160+α……Pelliot, Wang Tchong-min (王重民), M. P. Demiéville: 現在 M^{me}Guignard, M^{lle} Séguy, MM. J. Gernet, Wu Chi-yu, (吳其昱), Dzo (左), etc.
- チベット語…2216番以上……M^{lle} Lalou (カタログを Tome III, No. 2216 まで出した)
- サンスクリット…3000~4000 documents (利用可能1000~1500)…M. B. Pauly
- クッチャ語…799 documents……M. Walter Couvreur
- ソグド語……78……R. Gauthiot, M. É. Benveniste
- ウイグル語…388 ……M. J. R. Hamilton
- コータン語…66 MSS……M. H. W. Bailey
- (26) カンボジアのインスクリプション (拓本), ネパールのインスクリプション, インドのインスクリプション (拓本) は數次にわたつて圖書館に入つた。ネパールのインスクリプションはシルヴァン・レヴィの學術調査によつて得られたものであり, インドのは É. Senart; The inscriptions in the Cave at Nasik, Epigraphia Indica VIII, 1905, p. 59-46 に發表されたナーシクのインスクリプションの拓本である。
- (27) また G. Coëdès: Inventaire des Inscriptions du Champa et du Cambodge, Hanoi, 1908-Réimpr. de BEFEO, VIII, 1908, pp. 37-92. 外に次のものに補遺がある。G. Coëdès: Inscriptions du Cambodge, Vol I, 1937, p. 272-312; Vol. II, 1942, p. 207-212.
- (28) スナールはジャイナの寫本を圖書館に遺贈した (1928)。
- (29) Palmyr Cordier (バルミール・コルディエ) のコレクションは 1932 年に圖書館に入つた。コルディエは主として 1898 年から 1902 年のあいだにインドにおいて 200 近い醫學および煉金術のサンスクリットのテキストを手に入れたり, 寫させたりしていたのである。彼のコレクションは外にベンガルの諸文字による古典文學の作品をも含んでいた。
- (30) これはコルディエのコレクション (29) に對するリストである。このリストは六つに分かれている。
- I 醫學・煉金術の寫本 (デーヴァナーガリー文字) 1—191
 - II 種々のサンスクリットの寫本 (ベンガル文字) 192—297
 - III ベンガル語の寫本 298—303
 - IV チベットの寫本および木版 304—330
 - V 雜 1—7
 - VI ネガ (六箱)
- I と II (V の 2 も) は fonds sanscrit に, III は fonds indien に入つている。
- (31) これはスナールのコレクション (28) に對するリストである。このリストは三つに分かれている。

(158) バリ国立図書館所蔵のサンスクリットと寫本とその目録(定 方)

I サンスクリット, ブラークリット, パーシャの寫本, 1~321

II パーリの寫本, 少數

III 雜 少數

(32) 1938年, 東洋語學校 (Ecole des Langues Orientales Vivantes) はいくつかのサンスクリットの寫本を圖書館に入れた。多くは南インドのもので, グランタ文字およびマラーヤラン文字で書かれており, いろいろの旅行者がもたらしたものや, とりわけ Jules Delafon (ジュール・ドラフォン) 學術調査隊 (1881) がもたらしたもの等である。

(33) Jean Filliozat (ジャン・フィリオザ) 教授のこのカタログは「サンスクリット資料 (fonds Sanscrit)」(いくつかのブラークリット及び土語の資料を含んでいる) (註 [VI] の a に當る) を従前のカタログより更に詳細に記述せんとしたものであるが, 現在までに Fascicule I (No. 1~165) しか出ていない。

* フィリオザ教授は Fascicule I の出版にひきつづき可成りの註記 (notice) をつくったが, 印刷の運びにいたっていない。

(34) Bernard Pauly (ベルナール・ポウリー) 氏は 1957 年にペリオのサンスクリット資料の註記 (notice) をつくり始めた。

Journal Asiatique Année 1957, Fascicule n° 3

ibid. Année 1959, Fascicule n° 2

ibid. Année 1960, Fascicule n° 2

ibid. Année 1960, Fascicule n° 4

ibid. Année 1961, Fascicule n° 3

ibid. Année 1962, Fascicule n° 4

ibid. Année 1964, Fascicule n° 2

これらの註記 (notice) は資料の寫眞をつけて, Journal Asiatique とは別に單行本として出版されている。

Manuscripts de Haute Asie conservés à la Bibliothèque Nationale de Paris (Fonds Pelliot)

V Fragments Sanskrits de Haute Asie (Mission Pelliot), Paris, 1958

VII ibid. 1960

IX ibid. 1961

XI ibid. 1962

XII ibid. 1962

(1966, 1, 27 記)